

## 安全データシート

## 2-ニトロアニリン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 製品名      | : 2-ニトロアニリン            |
| CB番号     | : CB6287018            |
| CAS      | : 88-74-4              |
| EINECS番号 | : 201-855-4            |
| 同義語      | : 2-ニトロアニリン, o-ニトロアニリン |

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

|          |         |
|----------|---------|
| 関連する特定用途 | : 染色中間体 |
| 推奨されない用途 | : なし    |

## 会社ID

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 会社名 | : Chemicalbook      |
| 住所  | : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟 |
| 電話  | : 400-158-6606      |

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H21.3.27、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)を使用

## 物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類できない

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 区分外

自然発火性液体 分類対象外

自己反応性化学品 分類できない

可燃性固体 分類できない

引火性液体 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類できない

#### 健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 分類できない

生殖毒性 区分2

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 区分外

皮膚感作性 区分外

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

皮膚腐食性・刺激性 区分外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類できない

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分4

#### 環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 区分外

水生環境急性有害性 区分2

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

|       |       |
|-------|-------|
| GHS06 | GHS08 |
|-------|-------|

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(血液)の障害のおそれ。

H301 + H311 + H331 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合や吸入した場合は有毒。

注意書き

安全対策

P280 保護手袋 / 保護衣を着用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P271 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P260 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。

#### 応急措置

P314 気分が悪いときは、医師の診察 / 手当てを受けること。

P304 + P340 + P311 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

P302 + P352 + P312 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P301 + P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

#### 保管

P405 施錠して保管すること。

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

#### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

### 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

|                 |   |
|-----------------|---|
| 化学物質・混合物の区別     | : 化学物質  |
| 化学特性(示性式、構造式 等) | : C <sub>6</sub> H <sub>6</sub> N <sub>2</sub> O <sub>2</sub> |
| 分子量             | : 138.12 g/mol  |
| CAS番号           | : 88-74-4   |
| EC番号            | : 201-855-4   |
| 化審法官報公示番号       | : 3-392   |
| 安衛法官報公示番号       | : 4-(12)-295  |

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合：すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療が受けられないという例外的な状況のみ、嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20~40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水泡 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 粉末

### 5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

可燃性。

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

### 5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: いかなる場合も、ほこりを生じさせたり吸い込んだりしないようにすること。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 慎重に行うこと。適切に廃棄すること。関連エリアを清掃のこと。ほこりが生じないようにすること。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。

#### 衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

#### 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 6.1A: 可燃性、急性毒性カテゴリー1および2 / 猛毒性危険物

#### 保管条件

密閉のこと。乾燥。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

#### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。保護眼鏡

##### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

##### フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体のプロテクト

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。

DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

|   |       |
|---|-------|
| 形状                                      | 固体    |
| 色                                       | 黄色    |
| 臭い                                      | データなし |
| pH                                      | データなし |
| データなし                                   |       |
| データなし                                   |       |
| データなし                                   |       |
| データなし                                   |       |
| 280°C : SIDS (2001)                     |       |
| log Pow=1.80 (計算値) : CERIハザードデータ集(2006) |       |
| 水 : 1170mg/l (20°C) : SIDS (2001)       |       |
| 1.44 : CERIハザードデータ集 (2006)              |       |
| データなし                                   |       |
| 4.77 (空気=1) : CERIハザードデータ集 (2006)       |       |
| 0.1kPa (104°C) : CERIハザードデータ集 (2006)    |       |
| データなし                                   |       |
| データなし                                   |       |
| 519°C : CERIハザードデータ集 (2006)             |       |
| 168°C : CERIハザードデータ集 (2006)             |       |
| 284°C : CERIハザードデータ集 (2006)             |       |

71℃ : CERIハザードデータ集 (2006)

---

#### 融点・凝固点

71℃ : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

284℃ : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 引火点

168℃ : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 自然発火温度

519℃ : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

#### 爆発範囲

データなし

#### 蒸気圧

0.1kPa (104℃) : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 蒸気密度

4.77 (空気=1) : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

#### 比重(密度)

1.44 : CERIハザードデータ集 (2006)

#### 溶解度

水 : 1170mg/l (20℃) : SIDS (2001)

#### オクタノール・水分配係数

log Pow=1.80 (計算値) : CERIハザードデータ集(2006)

#### 分解温度

280℃ : SIDS (2001)

#### 粘度

データなし

#### 粉じん爆発下限濃度

データなし

## 最小発火エネルギー

データなし

## 体積抵抗率(導電率)

データなし

---

# 10. 安定性及び反応性

## 10.1 反応性

通常想定される。

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が

引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

## 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

## 10.3 危険有害反応可能性

硫酸濃度

硝酸

酸化剤

反応性が増す：

注意！亜硝酸塩、硝酸塩、硝酸にふれるとニトロソアミン遊離のおそれ！

## 10.4 避けるべき条件

強力な熱

## 10.5 混触危険物質

データなし

## 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

# 11. 有害性情報

## 急性毒性

経口

ラットLD50 = 1838mg/kg (雌)、3560mg/kg (雄)が対象となり(SIDS(2001))、値の低い雌のデータに基づき区分4とした。

経皮

ウサギLD50 > 20000 mg/kg (SIDS(2001))より、区分外とした。

吸入

吸入(粉じん): LC50 > 2.529 mg/L より(SIDS(2001)), 区分が特定できないため、分類できない。

吸入(蒸気): データなし

吸入(ガス): GHSの定義における固体である。

### 皮膚腐食性・刺激性

ウサギ皮膚に24時間適用したDraize Test(SIDS(2001))において、刺激性なし(not irritating)の結果に基づき区分外とした。

### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いたDraize Test(SIDS(2001))において、軽度の刺激性(slightly irritating)の結果に基づき区分2Bとした。

### 呼吸器感受性又は皮膚感受性

皮膚感受性:モルモットのmaximization test(SIDS(2001))及びヒトのpatch test(SIDS(2001))において、いずれも刺激性なし(not sensitizing)と判定された結果に基づき区分外とした。

呼吸器感受性:データなし

### 生殖細胞変異原性

マウスの腹腔内投与による小核試験で陰性結果(SIDS(2001))およびBayer, 1993とMonsant, 1989(IUCLID(2000))の陰性の結果に基づき区分外と判断した。微生物を用いる復帰突然変異試験で陰性の結果が得られている(SIDS(2001))。なお、CHL/IU細胞による染色体異常試験陽性結果(SIDS(2001))は極めて細胞毒性が強い状況とされ、生物学的意義は小さい。

### 発がん性

データなし

### 生殖毒性

ラットを用いた反復投与/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(ばく露が約9週間)において、高用量群で統計学的に有意なリッターサイズの減少、生後4日目生存率の減少、及び有意な仔の死亡増加が認められ、併せて同一用量の親動物で体重低下や臨床症状などの一般毒性が観察されていることから(SIDS(2001))、区分2とした。

### 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ラットに経口あるいは吸入ばく露した試験において(SIDS(2001)、HSDB(2008))、症状発現の用量が不明確なため分類できない。

### 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットを用いた反復投与/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(ばく露が約9週間)において、高用量(450mg/kg/day)での体重増加抑制を除き試験物質の影響はなく(SIDS(2001))、ラット雄に28日間吸入ばく露した試験でも高用量(90mg/m3)でメトヘモグロビン増加を含む血液パラメーターの軽微な変化を認めたのみで(SIDS(2001))、有害影響は見出されていない。しかしラット一種のみのデータであり、スクリーニング試験あるいは雄のみの試験のため、データ不十分により分類できない。

### 吸引性呼吸器有害性

データなし

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

ミジンコ等の水生無脊椎動物

半静止試験 EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 10.1 mg/l - 48 h

脊椎動物に対する毒性

備考: (ECHA)

## 12.2 残留性・分解性

### 生分解性

好気性 - 曝露時間 14 d

結果: 0 % - 分解性なし

(OECD テスト ガイドライン 301C)

## 12.3 生体蓄積性

(OECD 試験ガイドライン 305C)

生物濃縮因子 (BCF) : 2.1 - 4.9

で 25 °C - 0.5 mg/l(o-ニトロアニリン)

生体蓄積性 *Cyprinus carpio* (コイ) - 6 週

## 12.4 土壌中の移動性

データなし

## 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 12.6 内分泌かく乱性

データなし

## 12.7 他の有害影響

環境への放出は必ず避けなければならない。

---

# 13. 廃棄上の注意

## 13.1 廃棄物処理方法

### 製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

# 14. 輸送上の注意

## 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制) : 1661 IMDG (海上規制) : 1661 IATA-DGR (航空規制) : 1661

## 14.2 国連輸送名

IMDG (海上規制) : NITROANILINES (o-, m-, p-)

ADR/RID (陸上規制) : NITROANILINES

IATA-DGR (航空規制) : Nitroanilines

## 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 IATA-DGR（航空規制）：6.1

#### 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

#### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

#### 14.6 特別の安全対策

なし

#### 14.7 混触危険物質

---

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

変異原性が認められた既存化学物質(法第57条の5、労働基準局長通達)

### 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

### 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法）<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）<https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。